

非婚母子の生活暗転

⑧

ユリ(上)

ここにいるよ

沖縄 子どもの貧困

第2部 親は… (8)

ら、ほかの店舗のプロシエクトで関わるとして、専任より忙しくなりました。

■ 非婚(未婚)で専任のシヨウ(9)を出陣したとき、ユリ(40)は、飲食店やコンビニなどで半ばく働き始める企業で管理職として働くキャリアウーマンだった。手取り月収は第1期5万円、同級生の中でも一番の高給取り。一人の経済力で、子どもを養っていける自信があった。

■ 会社を辞め、非正規雇用となつて生活が一変してしまつたとき、当時未婚でも、いなかっ

■ 出陣前、ユリは10名以上の飲食店の店長らを指導するスーパーバイザーとして働いた。出産の約半年後、産後うつでからは、店二つを任せられな

ら、ほかの店舗のプロシエクトで関わるとして、専任より忙しくなりました。

■ ランチタイム前の午前11時に出勤して帰れるのは午後10、11時。目が覚めてから、夜間保育施設で寝ている息子を迎えて、家路に帰るともたびたびあった。

■ クレーム対応や店の設備の不具合で、夜間や早朝、緊急に店に呼ばれることがあった。そんなときは、幼い息子を一人自宅に置き、「何も起こりませんよ」と物やまうな気持ちで数時間家を空けた。

■ 高級取りの管理職こそ一番働くべきだと、120%の力を注ぐことを求められた。休みは週に一回あるかないか。職場復帰後は以前より懸命に働いた



ユリとシヨウの母子。節約のため、「外食はあまりしないでおこうね」と2人で話し合っている

の非営働職員となった。子どもと一緒に行われる時間は増えたが手取り月収は14、15万円と、かつての半分は減った。

■ ひとり親世帯に支給される児童扶養手当も高収入だったユリは対象外で、前年の所得が適用されるため、転機後1年間支給がなかった。

■ お金が回らなくなり、貯金を使い果たした。それまで美容室でのヘアカットに3千、4千円かけていたが500円、千円のところで行くようになった。横会の金を工面するものも精いっぱい。電気、水道、ガスすべて、1度は止められた経験がある。半月、水風呂で過ごしたこともある。

■ そのうち、仕事が休みの土日も、週々3回、子どもを母親に預けて、すし屋などの飲食店でアルバイトするようになった。

■ 転機後、家計の大きな負担となつていったのが保育料だった。(文中仮名)

管理職激務 非正規へ転職

■ 出陣前、ユリは10名以上の飲食店の店長らを指導するスーパーバイザーとして働いた。

■ 転機後、家計の大きな負担となつていったのが保育料だった。

■ 転機後、家計の大きな負担となつていったのが保育料だった。